

2 目標達成計画

作成日: 平成 23年 1月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域に宅老所はあるが、その地域に馴染みのある利用者が少ないため、あまり利用できていない。利用者の能力(年齢)や病状に大きな違いがあり、利用者全員で同じように活動するのは難しい。	できる限りの範囲で、個々の利用者の状態に応じた活動(地域交流など)や全員が同じペースで参加できる活動を提案し、地域の社会資源を有効利用する。	各利用者の状況や利用できる社会資源を職員間で再検討する。地域の宅老所に馴染みがない利用者にも参加を促し、一度体験をしてもらう。反応が良ければ、継続(定期的)に訪問していく。年間行事として、季節ごとに地域の名所や施設などの外出を計画する。	6ヶ月
2	48	以前は、作業所からの委託で特定の利用者が軽作業をしていたが、現在は依頼がないため滞っている。利用者の役割が、職員の一方向的な都合で決まっている。	外部からの依頼などに頼るだけでなく、自分たちの日常生活の中で、個々の利用者の能力を考慮したうえで、能力(機能)の維持・回復にも繋げられる役割を継続的に持ってもらう。また、系列グループのデイ・サービスのプログラムなどにも参加する。	系列のデイ・サービスと連携をとり参加を促し、買い出しの付き添いなどにも積極的に誘い出す。利用者のできる事、できない事には、あまりこだわらずに、とりあえずは促してみても、職員と一緒に活動し様子を見る。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。